2024年度事業報告

社会福祉法人 いきいき福祉会

2025年3月31日

目 次

I	はじめに	1
II	2024年度事業活動告	2
III	本部報告	2
IV	事業所及び事業報告	3
	藤沢(善行)拠点	3
	特別養護老人ホーム ラポール藤沢	3
	ショートステイ ラポール藤沢	4
	藤沢(稲荷)拠点	6
	地域介護サービスセンター 通所介護 ラポール藤沢	6
	在宅介護支援センター ラポール藤沢	7
	ケアプランセンター(居宅介護支援) ラポール藤沢	8
	城南拠点	9
	特別養護老人ホーム ラポール藤沢 サテライト城南	9
	訪問介護 ラポール城南(定期巡回・訪問介護・夜間訪問)	9
	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9
	・訪問介護(総合事業及び障がい事業含む)	9
	・夜間対応型訪問介護	9
	明治地区地域ささえあいセンターかるがも・生活支援コーディネーター	11
	サポートハウス ラポール城南	12
	藤沢市就労準備支援事業共同自事業体	13
	平塚拠点	16
	サポートハウス 和	16
	西寺尾拠点	17
	認知症対応型共同生活介護(グループホーム) ラポール西寺尾	17
	共用型認知症対応型通所介護 ラポール西寺尾	17
	デイサービス ラポール西寺尾	18
	ケアプランセンター(居宅介護支援)ラポール西寺尾	19
	生活援助員派遣事業(LSA)	20
	サポートハウス カントゥ・西寺尾	21
	三ツ沢拠点	22
	特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢	23
	ショートステイ ラポール三ツ沢	25
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ラポール三ツ沢	26
	ライフサポートワーカーズ・コレクティブむすび	26
	ワーカーズコレクティブくっくSUN	28
	辻堂準拠点	29
	藤沢市辻堂西いきいきサポートセンター(地域包括支援センター)	30
	藤沢市辻堂東いきいきサポートセンター(地域包括支援センター)	32

社会福祉法人いきいき福祉会 2024年度事業報告

1 はじめに

- 1) 2000年にスタートした介護保険制度は、「走りながら考える」という条件付きで、制度改正・報酬改定を繰り返し25年。「家族介護から介護の社会化へ」を掲げるも、その実際は、介護サービス利用者も介護サービス事業者にも大変厳しく使い勝手の悪いものとなってきました。2024年度は社会福祉法人の倒産や事業譲渡が増え、「介護の社会化」というより「介護の市場競争化」が顕著になったというのが実感です。社会福祉法人関連の会合においても「倒産への不安」という言葉が多く出てくる状況です。
- 2) 世界各地の戦争も他国のことではなく、世界の政治経済の動向が、私たち一人一人の暮らしに直結しています。加えての日本での少子化問題の深刻は、生産労働人口減少の深刻であり、日本経済をけん引してきた大企業の経営悪化・破綻等、日本の財政問題は一層深刻さが顕著になってきています。
そうした中での社会保障制度の財源問題と制度改正が繰り返されています。
- 3) 地域で福祉事業に取り組む私たちが見るのは、深刻化する市民生活の日常と拡大する社会福祉ニーズの多様化です。経済格差、貧困、失業かつ労働者不足、そしてあらゆる世代にある社会生活の不安です。その結果の家族崩壊、虐待、いじめ、犯罪等々が、私たち社会福祉事業者が関わる領域は無限に拡大し、その対応力強化が急がれています。
- 4) “もう限界！”と、声を出し始めた利用者、そして介護事業者が、2024年、2025年と2年続けて集会を開催。全国から会場での参加者やオンライン参加で寄せられる声は悲鳴にも近いものでした。「介護の社会化」を掲げたにも関わらず、「介護の家族化」へと逆戻りとなり、そして、介護する家族がいないことで、孤立・孤独化へと深刻化しています。
当法人の事業から見えてくる地域の深刻な暮らしの状況に、私たちが支援できる限界を感じるが増えてきました。「地域社会全員参加」のタテ・ヨコの協力・協働のネットワークの必要性を強く感じた一年でした。

- 5) 5年間の介護保険制度事業にあつて、通所・訪問の介護事業者の倒産・撤退、特養ホームや社会福祉法人の事業譲渡・統廃合への緊張が強まる中にあつて、当法人の職員たちが一丸となつて協働し、一定の結果を出せたことに感謝すると同時に安堵する2024年度でした。

この厳しい状況下にあつても、「人権」を中心に据えて職員の共育を図りながら、事業結果を出せたことを自信に、さらに共育力を強化し、正直な、そして地域社会へのさらなる関心を高め、2025年度さらに成長したいと考えます。

II 2024年度事業活動報告

- 1 経営の根幹である人材育成は、「健康経営」の取り組みは、参加型運営がすすみ、互いのコミュニケーション、チーム連携、エリア及び事業所を超えての交流も見えてきました。しかし、多様に増大する現場業務にまだまだ参加したくても出来ない職員状況です。
- 2 「職員満足度調査」にはハラスメント等の訴えも見られ、状況把握、迅速な対応に努めました。しかし、まだまだ管理者や本部事務局職員の意識強化が必要です。「声を出せる職場」にさらに取り組みます。
- 3 利用者満足度調査に取り組んでいるものの、苦情や事故への対応、その説明責任には事業所ごとに差があり、横浜エリアの事業所には問題が多々あることが決算の数字となって出ていることと考えます。2025年度早急に横浜エリアの改善に取り組みます。
- 4 災害予防移転後の「ラポール藤沢」の次なる取り組みが市民参加で動き出しました。2025年度はその活動含め報告書の第二弾をまとめ、全国で同じような災害予防に取り組んだ法人への参考事例になるようにしたいと考えます。
- 5 法人組織マネジメントには多くの課題が見えた2024年度でした。2025年度にはその課題解決に向けて、組織の総力化で取り組みます。

III 本部報告

1 法人本部の機能強化

2024年8月に事務局長を交代し、本部事務局の連携をさらに強めるために事務局長が各拠点への定期的な訪問を行い、現状把握と業務改善の提案を行いました。

また2024年度は2025年度に導入する新しい人事労務システムと勤

怠システムの検討から、人事労務システムは「SmartHR」、勤怠システムは「King Of Time」に決定し、新年度に向けて試験的に運用を開始しました。

これにより今後は管理一元化とペーパーレス化を進めてまいります。

2 経営資源「カネとカネ」のムリ・ムダをなくす。

デイサービス送迎車の車種の見直しを行い、中型車から小型車へ入れ替えにより、燃費の向上によるガソリン代の削減及び取り回しの良さから中型車の運転が苦手な職員も運転が行え車両の有効活用が進みました。また、事業所によっては電動自転車の導入台数を増やし、経費削減はもちろんのこと、駐車場問題解決にも役立っています。

3 防災

善行拠点では地域防災研修会を3月に開催しました。地域住民の方や藤沢市の職員を含め47名の参加があり、座学だけでなく実際に地域と一緒に歩いて地形等の確認を行いました。今後も地域住民と防災を通じて連携を行っていきます。

城南拠点では災害時非常用発電機を地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金を活用し、2階部分の単相式ではあるが想定では72時間の電力を保持できる設備を導入しました。

4 職場環境改善

時間単位の有給休暇の取得については、今年度は実用化できませんでした。新しい勤怠システムの安定した運用を図りながら2025年度中に準備を始めます。

様々な働き方や世の中の賃金体系に沿った就業規則や賃金規程の見直しが必要となってきましたので今後、コンパッソ社労士事務所と連携し協議を行っていきます。

IV 事業所及び事業報告

藤沢（善行）拠点

特別養護老人ホーム ラポール藤沢

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症との共存をめざし面会等の緩和に取り組み、3度に渡る段階的な緩和（1：面会回数1回から4回、2：回数制限なし、3：

土曜追加、外出外食可能)を行い、2025年度からの面会制限なしまで行いました。

2 入居者支援

(1) 個別ケアの充実

月1回の介護計画におけるカンファレンスの実施に加え、計画変更にともなうカンファレンスを実施することができました。さらに、ケアミーティングも随時開催され日々の変化や気づきに対して共有とケアの統一が図られました。

(2) 外出支援

ご家族付き添いやご自宅、買い物などの外出が実施されました。頻度は少ないものの、社会との関係を実施しました。

(3) 家族会のユニット開催

家族会は年2回開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症発症と重なり、年1度の開催となりました。面会制限緩和に伴い、日常的にパートナーとの対話が増え情報共有もされていることから、参加者も23年度41世帯75名の参加から、24年度は20世帯24名の参加になっています。

3 地域支援の推進

3月開催の家族会に合わせて、市民公開講座として薬剤師会の協力を得て、ポリファーマシー、マイナンバーについて講座を開催しました。参加者35名ほどあり好評でした。

4 専門性の向上

(2) 認知症ケアの推進

認知症ケアとして、施設全体でのカンファレンスを行うことはできませんでしたが、認知症に関する研修に継続的に職員を派遣しました。

5 経営の安定

年間稼働率 予算97%に対して実績97.8%と予算を達成しました。

(入居 27名 退去 29名 見取り 20名)

6 感染症対策の推進

新型コロナウイルスに関して、クラスター1回(8月4日～8月21日)合計14名(ご利用者9名。職員5名)ありました。クラスター以外では、職員22名が感染しています。

ショートステイ ラポール藤沢

1 2024年度の方針

介護が必要となっても、住み慣れた地域で、在宅で暮らし続けていけるよう、ご利用者の自己決定による生活を大切に、ご利用者に応じたサービスを心掛けることで、安心できる暮らしやすい環境作りに努めます。

そして、ご利用者の意思及び人格を尊重し、常にご利用者の立場に立って考えます。

2 利用したいと思える居場所の提供

(1) 個別ケアの充実

短期入所生活介護計画について、職員間で共有し支援を行うことができました。2025年度からは、職員が短期入所生活介護計画を作成、モニタリング実施まで行うことを目指し、その準備として、計画書の理解が進みました。

(2) 自立的な日常生活の支援

日中の空いた時間に、ユニット内で簡単な体操等を行いました。また、特別養護老人ホームでのイベントに積極的に参加しました。例：アニマルセラピー、餅つき

(3) 四季を感じられる食事の提供

四季を感じられるような食事を定期的に提供し、ご利用者にたのしんでもらうことができました。そのほか、各地域の郷土料理なども提供しています。

3 多様なニーズへの対応

(1) 他機関との連携

医療依存度の高いご利用者の受け入れも積極的に行っています。2025年度は経管栄養の方2名。そのほか、ケアマネジャー等との連携を密にし、少しの変化など共有していきました。

緊急受け入れとして、3名の方の受け入れを行い、柔軟に対応し在宅生活の継続ができるように支援しました。

社会資源の有効活用として、特別養護老人ホームの空き室の活用を積極的に図り、10名の受け入れを実施しました。

(3) ラポールの多様な事業との連携

サポートハウスのご利用者の受け入れや、法人内ケアマネジャー担当のご利用者の受け入れなど、法人内連携を強化し対応しました。

4 職員のチームワークの構築と質の向上

(1) 認知症への理解

2024年度認知症実践者受講者を派遣することはできませんでした。認知症の周辺症状が強くでている方の支援として、対応がうまくいかないケースもあり今後研修受講とともに、カンファレンスの強化も課題として残りました。

5 経営の安定

(1) 安定した事業運営

年間稼働率 予算 95% に対し実績は、89.3% でした。

6 感染症対策

(1) 感染症を施設に持ち込まない、広めない

日々の感染対応を行った結果、クラスターを発生させることなく運営できました。

藤沢（稲荷）拠点

地域介護サービスセンター（通所介護）ラポール藤沢

1 利用者支援

介護サービスの「入口」としての役割を持ち、デイサービス利用時間だけでなく、ご利用者の生活の一端を担う支援を行いました。社会交流や日常生活支援その人の「生活」に主眼をおいた支援に努めています。また、稲荷拠点の地の利を活かし散歩・花摘み・植栽を大切に季節を感じられることを大切にしています。

課題としては情報共有の方法がまだうまく確立していないので“記録”の意味を今一度職員と考えていきたいと思えます。また、認知症ケアにおいても職員間に隔たりがあるので是正していきたいと思えます。

2 職場環境・職員研修

働き易く働き続けられる職場を作るため、チームケアや職員間のコミュニケーションを大切にしています、急な勤務変更等も職員みんなで助け合い行っています。

業務時間の関係上課題になっている法定研修は勤務時間内に少人数にて実施し介護の質の向上に努めています。

3 地域との交流

やすらぎ荘祭り、ふるさと祭りへ参加させていただきご利用者作成の作品展示・販売を行いました。今後はさらに城南かるがもと連携し情報交換や活動にご利用者を巻き込み参加していきたいと思えます。

居宅介護支援事業所とも連携し引地町内会の防災会議にも参加しています。

4 経営戦略

長期入院やご入居者数の増加により前年より大きく稼働を落としています。そのため広報に力を入れ月に1～2回、各地域包括や居宅介護支援事業所へ挨

拶参り・情報共有のため伺っています。

年度後半よりやや新規のご利用者が増えてきています、今後とも各事業所を周りを行って行きます。

○新規利用者30人 契約終了28人（内訳 ご逝去6人 ご入居19人
その他3人）

2024年度総延べ利用人数8,193人（前年比-7%） 開所日309日 稼働率66.2%

	要支援	要介護	総延べ利用者数
2020年度	1,311人	5,909人	7,220人
2021年度	1,448人	7,374人	8,822人
2022年度	1,415人	7,792人	9,207人
2023年度	1,269人	7,786人	9,055人
2024年度	1,354人	6,839人	8,193人

○申請中のADL維持等加算はADL利得4.5と算定されたためADL維持等加算（Ⅱ）の算定を行います。

○近年、土曜日や祝日などは辻堂方面の帰宅送迎時に著明な渋滞が発生しているためご利用者の帰宅時間変更も含め検討中です。

在宅介護支援センター ラポール藤沢

地域住民の主体的な地域への参加、福祉への参加の視点で藤沢市からの委託事業を活用して、介護予防事業や介護者教室（介護者の交流、社会とのつながりづくり）を実施しています。

1 介護予防教室「サロン元気」

年間を通じて、体操教室を開催。活動を通じて、住民の健康意識の向上、また、助け合いや介護保険制度の情報、認知症予防の活動を実施しました。

登録者は54名あり、年間のへ利用者数は718名（平均月60名参加）になりました。

2 家族介護者教室の実施

① 認知症の理解と介護者交流 ②地域防災（高齢者の防災） ③リハビリテーションの活用について

上記を3か所（明治、辻堂地区）にて開催しました。

合計で42名の参加がありました。

3 自主事業「金曜体操会」の解散

介護者教室も10年を過ぎ、参加者の主体的な取り組みにより、自主的な体

操教室が2012年から実施しました。

会員は約20名でしたが、10年を節目に参加者の高齢化により2025年3月で解散となりました。

解散はしましたが、地域のつながりで仲間ができ「孤立化防止」活動や食事会、公民館活動の参加へと繋がっていきました。引き続き、介護予防教室を通じて、住民参加や地域づくりの一助となるような活動の場を提供していく必要があります。

ケアプランセンター（居宅介護支援）ラポール藤沢

1 権利擁護に向けた取り組み

(1) 虐待防止についての当ケアプランセンターにおける指針を作成しました。利用者を取り巻く家庭環境を多角的に捉えて介護だけでなく経済的な問題などによって弱者である要介護利用者、要支援利用者が身体面、精神面、金銭面など様々な場面に於いて不利益とならないように常に状況を把握していきわずかな不安も居宅のみならず包括、市など共有を図り解決に向けて迅速に動くことを確認しました。

虐待と疑われる段階から随時虐待防止委員会を開催し対応に取り組みます。

(2) 朝礼や事例検討の機会を活用しケース共有やその場で対応策を出し合うなど日々経過する利用者の生活に少しでも活力を取り戻すことのできるようにリアルタイムに考えられる雰囲気ができ、支援に取り組んできました。

(3) ニュースなどにおいて社会的にハラスメントを取り上げられる機会も増えています。当事業所のケアマネジャーがハラスメントを受けることを想定して計画に盛り込んだ内容でありましたがハラスメントとして受け止める事例はほとんどない状況でした。しかし、家族にもハラスメントとならないよう意識した面談や電話の時間配分をしている方も居られます。

意識するばかりに在宅介護の課題が利用者や家族から相談されない可能性も意識して、冷静に分析し取り組む力を養っていかなくてはなりません。

苦情対応の場面では話し合いが進むにつれ実際は意思疎通の不足が原因であったなど、当方のスキルアップが必要な状況も認識しました。

2 ACPを意識して利用者の人生の終い方を考えていただく機会をもつ訪問を増やしています。年齢関わらず最期にむけた取り組みを意識していただくことはその後の過ごし方も変わっていくものと考えて取り組んで居ますが耳を傾けない(気持ちに変化がない)方も居られ次年度以降も課題として取り組

んでいきます。

- 3 研修計画は、介護支援専門員としてのスキルアップを考えて計画立てましたが具体的な成果として上がる者はわずかです。今後も自身に不足している部分を認識しスキルアップにつなげられるよう目標を具体的に立てて取り組みます。
- 4 ケアプランデータ連携システムはいきいき福祉会に於いて最も早くに導入しました。現在データを事業所へ送信することでペーパーレス化、時間短縮が実現しています。実績をデータとして取り込み、全員が請求業務の大幅な時間短縮できるよう効率を上げていきます。
- 5 請求担当の増員は実現しませんでした。件数としては業務効率向上を図り、より多くの利用者を受け持つことのできるよう工夫してきましたが、多課題ケースの増加や文書整理など細かな業務の全てを行っていかなくてはならないため、40名以上安定して受け持つケアマネジャーはわずかとなっています。
- 6 地域への取り組みとして、サロン元気や公民館祭りへの参加は継続することができました。

町内会との取り組みでは、家族介護者教室として法人内で協力を得て協賛という形で開催することができました。今後はこのようなつながりを継続することが重要になっていきます。町内会など地域にとって何を求められているか考えて、繋がり続けます。

城南拠点

特別養護老人ホーム ラポール藤沢 サテライト城南

特別養護老人ホーム ラポール藤沢と一体的に運営しています。

訪問介護ラポール城南（定期巡回・訪問介護・夜間訪問）

1 訪問3事業の活動報告

(1) 利用者数・支援回数（2024年3月末現在）

事業		利用者数	支援回数
訪問	総合事業	4名	30回

	訪問介護	3名	148回
	居宅介護（障害）	2名	79回
夜間訪問		20名	100回
定期巡回		11名	1160回

(2) 職員数

常勤	訪問のみ	7名
	デイとの兼務	1名 週10.5時間
非常勤（登録）		1名 週9時間程度

入職者 0名 / 退職者 2名（介護・家庭の事情により退職）

(3) 新規依頼・相談件数

事業	上半期（4～9月）	下半期（10～3月）
訪問介護	20件	11件
夜間訪問	10件	16件
定期巡回	5件	16件

(4) 注力した取り組み

ア 「カスタマーハラスメント」と呼ばれる事案

行政を含む10数名の専門職と連携して対応し、ご利用者の生活が破綻しない選択ができるよう支援しました。職員の精神的な成長に繋がりました。

イ 「国保連ケアプランデータ連携システム」活用推進活動に参加

将来の人員不足に向けて業務効率化を図りました。これにより、地域の事業者との連携が深まり、法人内事業との協働が増えました。

ウ 職員の自発的な提案と業務分担の取り組み

前向きな発信が増え、各自が自信をもつことに繋がりました。また、客観性を意識することで、ご利用者支援にあたる時間が増えました。

2 各事業の活動報告

(1) 訪問介護 <平均介護度> 3.6（総合事業を除く）

より地域に密着した事業運営に取り組むため、長期ご利用者3名の支援をお断りしました。止むを得ず提供を中止した支援は他事業所への引継ぎを行い、生活への影響が最小化されるよう工夫しました。

(2) 定期巡回

新規2名/終了者5名（施設入所）

<平均介護度> 3.4

<年齢> 60歳代1名/70歳代3名/80歳代2名/90歳代5名

<世帯状況> 高齢者世帯1名/家族が就労2名/独居8名（内サポー

トハウス入居者3名)

今年度は、中介護度の独居高齢者と重度障害の前期高齢者の支援の二極化が見られました。ショートステイを経て、法人特養へ入居というケースが多くありました。

法人内の支援が継続できる点で家族・ご本人にとって安心感があり、他社との差別化に繋がっています。

(3) 夜間訪問

夜間訪問の定期巡回移行を意識し、夜間随時訪問・定時訪問のご利用者に携わる様になりました。

明治地区地域ささえあいセンターかるがも・生活支援コーディネーター

ささえあいセンターかるがもは2014年に「地域の縁側事業」モデル事業としてスタートし、2024年10月に10周年を迎えました。

(年間合計開所日数)	268日					
(年間合計来所人数)	4,810人					
(1日あたりの利用人数)	約18名					
中学生 以下	20歳 未満	20～ 30代	40～ 64歳	65～ 69歳	70代	80歳 以上
585人	37人	236人	974人	361人	1,106人	1,511人

1 ささえあいの拠点となる居場所づくり

高齢者の通いの場として定着していたかるがもも、今ではこどもから高齢者まで多世代のいばしょとして定着しています。

障害のある子どもを育てている親が子どもと一緒に外に出て、地域の人とおしゃべりをしながらほっと一息つく姿が見られました。また、不登校の子どもが平日かるがもにやってきて、お年寄りに手芸を教えてもらったり、歌のサークルに参加して歌をほめてもらったり、役割をもらって活動する中で、自己肯定感が高まり学校に通い始めたという事例もありました。認知症の方でもサークル活動に参加しながらできることを楽しんでいます。

2 アウトリーチ活動

在宅で介護している地域住民の要望により、訪問介護の介護福祉士を講師に迎え、地域住民向けの介護技術講習を開催しました。受講した住民の中から介護サービスについても相談があり、包括支援センターやケアマネジャーにつなげるなど、住民のニーズに沿った支援をコーディネートすることができました。

地域で行われている協議体や研修会に積極的に参加し、ささえあいセンターの役割を周知し、利用促進とネットワークづくりを図るとともに、連携を深める活動を推進しました。

今後は地域ニーズを把握し地域の関係機関と連携して活動できるよう地域ケア会議への参加を検討します。

3 広報活動

法人のホームページのリニューアルに伴い、事業所のページでもかるがも通信を掲載できるようにしたり、フェイスブックをリンクさせたりできるようにしました。月2回発行している「かるがも通信」は、広報のツールとして明治地区の地域住民への回覧板、町内会のホームページ及び藤沢市社会福祉協議会のボランティアセンターホームページに掲載されています。

2024年度は藤沢市の地域活動見本市に参加し、かるがもをはじめ藤沢市に36か所ある地域の縁側についてPRを行いました。また、かるがもの活動を紹介するパネルを作成し、リーフレットを刷新しました。

4 食の支援

2023年度に引き続き、週1日毎週金曜日にかるがも食堂を運営しました。

地域の食支援の場や交流の場となっているかるがも食堂のニーズは高く、火曜日にラーメンの日をスタートし、週2日の営業に拡大しました。また、水曜日にはパンの販売を始め、地域の住民が受け取り、納品確認、仕分け、販売を進んで行うなど、担い手となっています。

2021年6月からはフードバンクふじさわと協働し、ひとり親世帯への食支援であるフードパントリー活動を開始していますが、2024年度初めは18名だった利用者が年度末には倍の38名となり、認知度とニーズの高まりを実感しました。

ひとり親家庭や生活苦の世帯への食料品の配布だけでなく、子育てや仕事の相談を受けるなど、母親のサポートの場にもなっています。食料品の仕分けに地域のボランティアが参加し、活動を通じて担い手の創出につながっています。

2024年度は必要な家庭への食の支援に加え、子どもの居場所づくり、子どもの孤食の解消、子どもの見守りを通じた多世代交流を目的とした定期的な子ども食堂の運営を行うことができました。

サポートハウス ラポール城南

部屋数7室 稼働率86%（年間を通じて1室の空きあり）

1 利用者はサポートハウス城南では、それぞれの生活スタイルで暮らしを实

現されています。また、ラポール城南のもつ多機能を活かして、ささえあいセンターで自主的に活動される方や、定期巡回型訪問介護を利用することで在宅生活を継続されています。

2 入居者の一部の方ですが避難訓練に参加するなど、災害への取り組みにも参加されています。今後も地域と共にあんしんできる暮らしに備える活動を協働して実施する予定です。

3 1部屋の空きに対し、5名ほどの入居相談がきましたが、経済的な課題や医療サービスの課題などで入居が叶いませんでした。

暮らし続けるための家計相談が必要になっています。

地域の専門家との連携により、多くの方が長く快適な暮らしができるように支援する必要が出てきています。

4 老朽化によりメンテナンスが必要となっていますので、今後、計画的に修繕計画を行っていきます。

藤沢市就労準備支援事業共同事業体

(一般社団法人インクルージョンネットかながわとの共同事業)

1 概要

新型コロナウイルス感染症の影響も減り、コロナとともに生きる新しい生活様式が定着しつつあり、交流会などのイベントも以前同様に開催できるようになってきました。一方で、数年に渡るコロナ禍において、企業、団体、自治体などとこれまで築いてきた地域のネットワークが弱まってしまっています。

その様な状況の中、当事業において地域のネットワークを活用し、地域づくりを行なっていくことにより、誰もが住みよい地域づくりに寄与していくことが基盤となっています。途絶えてしまった関係性を再開していくとともに、改めていきいき福祉会や生活クラブのネットワーク（就労、ボランティア先、人材等）も活用し、新たなネットワークを作っていきます。

社会参加の場としての交流会等については、当事業ご利用者のみならず、誰もが気軽に参加できる多様性があり、相互作用が生まれる場を目指します。また、利用者個人個人に合った形での多様な働き方、新たな仕事の形（中間就労、ボランティアなど）の場づくりを行なっていきます。

2 重点実施事項

(1) 地域ネットワークの再構築

ア いきいき福祉会内、生活クラブへの普及啓発、交流の機会づくり

いきいき福祉会内では辻堂東包括での就労体験見学や稲荷の2階、3階の活用の話し合いをしました。就労体験を通じて、かるがも食堂・なぎさ食堂での就労（1名）やなぎさ食堂での単発アルバイト（計4回、延べ6名）を法人内の協力のもと実施しました。また交流会へのサテライト利用者参加がありました。

稲荷拠点の利活用プロジェクト開始にあたり、施設内の片付けや落書きイベントに参加し当事業利用者の社会参加の場とする（計4回、延べ7名）とともに、参加団体との交流を深め地域ネットワークの構築に努めました。

利用者交流会において、『防災食』をテーマに防災担当の逢澤さんを講師としてお招きし、試食用として三ツ沢提供の防災用保存食を用いるなど、法人内ネットワークを活用しました。

介護教室チラシ作成および仕分けボランティア、居宅介護支援からのケース検討依頼2件など法人内での連携を行いました。

湘南生活クラブへの接触は行っていますが、アポイントメントの成立には至っていません。

イ 既存連携先への事業啓発、交流の機会づくり

農福連携での連絡会への継続的参加、フラワーガーデンハセガワへの見学、稲荷円卓会議、イベントへの参加は継続して行っています。また事業所として初めて明治地区賀詞交歓会へ参加しました。

ウ 新たな企業・団体への事業啓発と多様なボランティア、就労体験等の場づくり

新たに株式会社ほんの木での就労体験実施、大船榎本クリニックのデイケア利用や就労継続B型えにしんぐへの事業説明を行ないました。今後関係機関との連携により、新規就労体験先を開拓していく予定です。らいふたうんデポ、フラワーガーデンハセガワなどコロナ禍でストップしていた事業所での就労体験を再開できました。

生きがい就労センターにて、障がいの有無に関わらず工賃が得られる場の開拓ができました。

エ 当事者会、他自治体就労準備支援事業等との交流の機会づくり

5月にラポール城南にて他市就労準備支援事業（平塚・厚木・伊勢原・鎌倉・茅ヶ崎）の交流会を立ち上げました。11月に厚木にて他市就労準備支援事業（厚木・座間・伊勢原・相模原・茅ヶ崎）との第二回連携交流会を実施し定期化することができました。未参加の大和市・海老名市へのアプローチをかけました。

コロナ禍により関わりを持たずにいた『つぼみの会』（ひきこもり家族会）の勉強会に参加し、その後も継続的な接点を持つことができました。

3 継続事項

(1) 社会参加の場の拡充

ア 藤沢市社協、生活援護課、保健所等の関係機関との連携

6月にバックアップふじさわ、生活援護課の就労担当（計7名）と情報共有を実施しました。保健所については、進展がないため、再度アプローチする必要があります。社協のまつり会との連携はできました。また地域カフェ訪問などができました。他機関連携により、誰もが参加しやすくしていくことが課題です。

イ 社協CSW、社会参加事業と連携（交流会、ボランティアや社会体験・経験に繋がる行事を企画推進）

これまでの交流の成果から、社会参加事業の利用者が飛び入りで就労準備支援事業の行う交流会に参加しました（1名・2回）。9月に社会参加事業利用者向けの勉強会を実施し、利用者9名、関係機関12名が参加し、新規ケース、関係機関からの照会にもつながりました（新規2名、問い合わせ4名）。また、社協ひきこもりの居場所「こころま」への参加、連携することができました。

(2) 関係機関との連携強化

ア バックアップふじさわ・生活援護課、藤沢市社協コミュニティソーシャルワーカー（CSW）との課題共有・解決の協議（特に生活援護課）

6月にバックアップふじさわ、生活援護課と情報共有、前年度事業報告を実施しました。生活援護課と月報の共有を始めました。9月の社協の社会参加事業利用者向けの勉強会にコミュニティソーシャルワーカーも7名参加し、事業詳細の説明ができました。市社協への説明は勉強会にて代替することができ、CSWに事業詳細を伝え、新規相談につなげることができました。

イ その他既存連携先との継続的情報共有

5月にJAさがみでの情報共有し、関係性再構築しました。6月にユースワーク活動報告会に参加し、8月にフードパントリー本部のボランティアに参加しました。また他事業所（3事業所）からの見学やWEショップとの協議をすることができました。また居住支援のネットワークを活かし障害分野等との連携強化ができました。

(3) 研修会等

ア 関係機関とともに支援のレベルアップ

11月に「対話のことば」（金子先生）を利用した就労準備勉強会を開

催し、19名、障がい者支援事業所（4事業所）が参加しレベルアップ、連携強化ができました。

イ 事業の周知、理解

新しい職員3名に対して、事業説明の機会に5回参加してもらいました。また、国・県の研修（計5回）へ積極的に参加しました。

（4）職員のスキルアップ

ア 複数の視点を取り入れ、幅の広い面談実施

新しい職員に積極的に面談同席の機会を作り多様なケース対応の機会をつくっています。

イ 毎朝のミーティング、定例ミーティングでのケース検討

朝ミーティングの継続とともにケース状況に合わせたテーマ別ミニ勉強会を3回実施しました。

ウ とともに生きることば研修実施

毎月実施し、相談ノウハウ共有の場となっています。

エ 全国大会を含む、外部研修会への積極的参加

下期を中心に新規相談員の研修のために計25回延べ45名、外部研修へ積極的な参加を行いました。

平塚拠点

サポートハウス 和

1 入居者対応

（1）新規職員が、巡回等で得た情報や緊急時に大家、ケアマネジャーや関係機関と共有しながら対応しています。また入居者が過ごしやすい様に、敷地内の環境を整えています。

（2）花壇の整備

入居者が行っている花壇整備のサポートを継続して行っています。

2 地域との連携

（1）はたらっくひらつかが、居場所として季節ごとに利用されていて、利用者、ボランティアと新規職員がカレーを料理して、入居者を交えてみんなで召し上がっています。その後は、ゲームやお話等をされて過ごされています。

（2）新規職員が、以前参加していた引きこもりカフェに立場を変えて参加され、利用者に寄り添ったケアを行っています。また訪問マッサージが行うラジオ体操と回想法のレクリエーションや、臨床美術サロンには、入居者、利

- 用者と共に参加してみんなが過ごしやすい雰囲気づくりを行っています。
- (3) 入居者と共に自治会の清掃活動に参加しています。また入居者に地域サークルやボランティアの紹介、問い合わせを行い、地域と繋がれる様に声掛けしています。

3 防災対策の推進

- (1) 防災機器の定期点検を行い非常時に備えています。また職員、入居者と災害時の避難場所や避難経路についての確認を行っています。
- (2) 災害時 2 次的避難施設福祉避難所の環境整備
災害時に災害対策課と連携し、2 次的避難施設福祉避難所として機能する様に環境整備を行っています。

4 人材育成の推進

毎月法定研修等や健康経営プロジェクトに参加しています。

西寺尾拠点

認知症対応型共同生活介護（グループホーム）ラポール西寺尾

1. 利用者ケアの統一

職員一人一人が認知症の専門職として、1 名を対人援助職コミュニケーション研修に参加し、認知症への理解を深め、継続的なケアを提供するため職員間で学びを共有しました。職員の充実に伴い、日々の支援に散歩や体操などの活動が増え入居者の生活の質の向上できています。来年度も継続して行い生活の質向上を目指していきたいと思えます。また、外出の機会を増やし、ご家族も参加しての花見や初詣など季節を感じていただくことが出来ました。

2. 職員育成

新入職員への認知症の研修や介護技術の研修を 1 名受講し、一人一人のスキルアップを図ることが出来ました。また、学んできたことを職員間で共有できました。

看取りでの、追悼カンファレンスを実施し、ケアの振り返り、見直しや改善点の把握を職員で話し合う事ができ、サービスの質の向上を図ることが出来ました。

3. 安定した稼働の確保

退去後の空室の期間が短く、円滑に新入居者の受け入れを行う事が出来年間稼働率 94%でした。また、空室期間は空室活用としてショートステイ

利用を行い、空室が出来ないように対応する事が出来ました。

共用型認知症対応型通所介護 ラポール西寺尾

1. 利用者ケアの統一

職員一人一人が認知症の専門職として、1名を対人援助職コミュニケーション研修に参加し、認知症への理解を深め、継続的なケアを提供するため職員間で学びを共有しました。職員の充実、デイサービスとの兼務を行ったことにより、日々の支援に体操などのデイサービスとしての活動が増え、入居者とともに心身の活性が高まって来ています。継続して行い、体操のレパトリーなど増やしていきます。

認知症状が強く、集団での利用が難しい方、入浴拒否が続いていた方など少数での支援し、職員の声掛けや支援内容の統一する事が出来たため、グループホーム内での暖かい雰囲気もあるが安心感につながり毎日利用に繋がっています。ご家族からも提供時間の延長希望や夕食の提供などご意見があるため、次年度に向けて検討したいと思えます。

2. グループホームの待機の間として

顔見知りの職員、馴染みの居場所としてご本人、ご家族とコミュニケーションを密に取る事で安心できる居場所づくりを行う事が出来ている。

3. 安定した稼働の確保

利用者延べ数 67

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0名	0名	1名	1名	1名	1名
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1名	0名	1名	2名	2名	2名

デイサービス ラポール西寺尾

1. サービスの質の向上

サービスの質の向上を図るため、2024年度も認知症実践者研修に2名の職員を受講し、認知症に対する知識の習得、習得した知識の実践、職員間で学びを報告、共有することが出来ました。日々のケアで実践できている状況です。毎月の手作りメニューの提供は職員の病欠等で行えない月もありましたが、月1回実施できています。三ツ沢栄養士と提供する食事メニューの相談を行い、食を通じた健康づくりの企画については実施できておりません。

2. ご利用者家族との信頼関係の構築

送迎時や電話にて、職員一人一人が小さい変化や様子を伝えることが出来ています。連絡ノートの内容が充実したり、他サービスへの情報共有も行えている状況です。

3. 職場環境改善、職員育成、チームワーク強化

各職員との個人面談を行い、改善に向けた対話をすることができました。適切な情報共有については、相手に伝える言葉のニュアンスがうまくいかず、情報が職員へ回らない時があり連携がうまくいかなかったときがあるため、毎日のコミュニケーションを大切にしてチームワーク強化を図ってまいります。

4. グループホーム・デイサービス兼務の継続

西寺尾拠点での兼務については、継続してフォローできる関係性を構築できています。来年度も継続していきます。

5. 安定した稼働率の確保と向上

目標稼働率を72%と設定していましたが、51.0%と大きく稼働率が下回ってしまいました。施設入居が昨年度に続き多くなり、新規利用者も増えていないため、低下している要因として考えています。次年度関係居宅介護支援事業所への訪問を月2回に増やし、新規利用者獲得を目指していきます。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
45.0%	42.5%	48.3%	49.0%	46.7%	53.1%
10月	11月	12月	1月	2月	3月
54.2%	59.5%	57.5%	52.0%	52.5%	52.6%

新規利用者 10名

廃止者 13名 (逝去5名、施設入所8名)

延べ利用者数 3498名

6. 地域とのつながり

神之木地域ケアプラザの認知症カフェをきっかけにボランティアでの音楽演奏や地域住民からのオルガン演奏など、問い合わせがあり毎月のボランティアがデイサービスへ訪問して頂いております。来年度も継続し地域とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

ケアプランセンター（居宅介護支援）ラポール西寺尾

1 利用者支援の在り方

(1) 逡減数について

利用者の人数は、個人の担当持ち件数の調整を行い、毎月の利用人数を把

握し、新規の受け入れは事業所内で検討しながら進めた。後半からご逝去や施設入居があり、新通減数の77%となりました。

(2) 利用者全員に適正な支援

ア 丁寧なアセスメント、利用者・家族の要望を計画に反映できるように努めたが、状況に変化のある方の支援や要望の多い方の支援に時間を割くことが多く、欠ける部分もあったと思われます。

イ ラポール西寺尾、ラポール三ツ沢の協力で利用者支援ができました。

(3) 法令順守

それぞれのサービスにおける制度改正の内容の把握、介護保険ソフトの変更があり、慣れる事に時間を要しました。

制度の内容については、事業所との連携で情報を得ることも多い状況でした。

2 先に繋がる事業所運営を実施

(1) 利用者支援

ア 研修は、外部研修や神奈川区のケアマネクラブ、横浜市からの案内の研修に参加した。新子安地域ケアプラザとは、2月に合同研修を行うことができました。

イ 事例検討は、課題があればその都度事業所内で話し合い、共有を図りました。

ウ 藤沢居宅とは、毎月1回居宅会議を開催し、情報の共有と研修を行いました。

(2) 介護支援専門員の増員

介護支援専門員の増員は、叶いませんでした。

新人のマニュアルは作成できませんでした。

(3) 収益について

ア 介護支援専門員の増員が叶わなかったため、特定事業所加算が取得できませんでした。

イ 初回加算、通院時情報連携加算は算定できたが、入院時の情報提供加算は期間が短くなったので、対応できませんでした。

ウ 外部の認定調査は、可能な範囲で受けました。

エ 持ち件数の調整を行ったため、減収となりました。

生活援助員派遣事業 (LSA)

1 高齢者向け市営住宅は多様な高齢者住宅として

(1) 体制の整備

ア 新規入居2世帯、退去1世帯がありました。

イ 入居時の説明が、足りない事例があり、時間が経ってからの対応となりました。

このことを踏まえ、入居時の必要書類や説明内容については、再確認を行いました。

ウ 横浜エリアのサービスを利用している入居者もいるので、状態や体調についての情報共有ができました。

2 入居者とのコミュニケーションの充実

(1) 関係づくり

対面や電話での安否確認の入居者とは、良い関係づくりができていますが、カードの提出だけの入居者とは、関係作りが課題となりました。

(2) 相談室の活用

談話室でのイベントはできませんでしたが、来室して話をしていく入居者もあり、相談室としての位置づけは、浸透しています。

3 相談員間の連携を強化します。

(1) 個人情報の記録について

個人情報を持ち歩かないようにするために、記録をスマートフォンやタブレットで入力できるようにしました。2025年度から開始します。

(2) 情報の共有

棟ごとに担当が変わり、担当が休むと欠員を埋めることがあるので、情報共有と申し送りの強化をしました(棟ごとにホワイトボードに情報を記載または紙による申し送り)。

4 関係機関との連携

(1) 行政との連携

ア 運営に当たっては、受託先の横浜市健康福祉局高齢在宅支援課との連携で運営しました。

イ 生活保護の利用者が多く、神奈川区役所の生活支援課との連携で、利用者支援ができました。

サポートハウス カントウ・西寺尾

1 障害者や高齢者への住まいの提供

(1) 広報について

サービス内容や緊急対応について、意見がまとまらなかったため、広報は

できませんでした。

(2) 記録や申し送り

些細なことでも、記録をするようにしました。

(3) 連携

ア 夜間は、サポートハウスの電話をグループホームに転送することで、連携ができています。

イ ラポール城南3名の入居者の安否確認を土曜日・日曜日に担当することで、城南と連携しています。

ウ コミュニティールームで行っている体操の参加者は増えており、身近な相談窓口であり、情報発信の窓口となっています。

2 運営（サポート体制）の検討

(1) サービス内容

ア サービスの内容が、現在入居している利用者の個別のケースが主になっているため、先のサポートハウスの運営については社会の状況に合わせて変更点について意見交換をしました。

イ 安否確認の形態・事務所の対応・ちょっとした困りごとの支援・緊急対応と継続審議で、次年度に持ち越します。

(2) 運営について

ア ラ・クラッセ西寺尾の活用については、生活クラブとの連携を視野に建物が福祉マンションとして工夫がなされている箇所を説明できました。

イ 居住支援法人として内部の意見交換ができ、実際に建物を案内することができました。

ウ ラ・クラッセ西寺尾の管理会社タイセーハウジーと、年金生活者が部屋を借りる事に関する話し合いはできませんでした。次年度持ち越しの課題となりました。

3 経営

ア 1件のご逝去による退去があり、新規入居はありませんでした。

イ 夜間のオンコール体制を警備会社の一本化にしたいと現入居者へ提案しましたが、差し戻された状態で年度を終えました。

三ツ沢拠点

1 防災の備えの推進

三ツ沢拠点のBCPは策定しており、10月8日（火）に、自然災害BCP研修&訓練、3月18日（火）に感染症BCP研修&訓練を法人全体で実施しました。また、必要な食糧備蓄品として今年度より7日分の食料・水分を確保

しました。

2 地域連携の一層の推進

寄付品やボランティア参加を中心に、地域の資源循環と支援活動を行っている認定NPO法人「WE21ジャパン・ほどがや」のリユース&チャリティ店の出張販売を、9月7日（土）と12月14日（土）の2回、ラポール三ツ沢多目的ホールにて開催しました。当日は近隣地域の方や、ラポール三ツ沢のご入居者や職員、ワーカーズコレクティブメンバーなど、趣旨に賛同頂いた大勢の方々が、楽しみながら購入していました。

3 人財の育成

休職者や退職者による人員不足の為、三ツ沢拠点内での兼務職員を増やすことはできませんでした。

4 大規模修繕計画の策定

法人本部事務局長を中心に、昨年度までに立案した計画の修正、検討を行い、2025年度より実施する計画を立てました。

※2024年度新型コロナウイルス感染状況

● 介護看護職員 7名

● 入居者 22名

・クラスター 2025年1月末日～2月中旬まで、2東ABユニットにて入居者11名（みなし陽性含む）陽性、職員1名陽性。

嘱託医、保土ヶ谷福祉保健センターと情報共有し、感染対応を実施しました。

特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢

はじめに、2024年度は目標稼働率97%に対して、実績は90%。（予算比▲2,380万円）という結果となりました。要因としましては、生活相談員や介護職員の人員不足により、入居調整等がスピーディーに対応できなかったことや、ショートステイの稼働も低く、ショートステイ利用者からの特養への入居者が進まなかったことなどが上げられます。2025年度は生活相談員を3人体制にし、スピーディーに入居調整を実施します。

【入院状況】	三ツ沢	（ 藤沢 ）
延べ日数	602日	（ 530日 ）
平均入院日数	16日	（ 13日 ）

【入居人数】

2024年度 19名（2023年度 20名）

退居人数

2024年度 22名（2023年度 19名）

1 ご入居者本位の生活の支援

ご家族と顔の見える関係性やコミュニケーションを構築し、ご家族を含めたチームケアを実践する為、8月3日（土）2西ABユニット、8月17日（土）1東ABユニット、2東ABユニットの家族会を開催しました（※8月31日はコロナ感染対応の為中止）。合計で8家族（14名）の方に参加頂きました。当日は施設状況を共有し、ご家族へもケアの協力を依頼しました。

提携薬局を変更しましたが、嘱託医と連携したポリファーマシーについての取り組みは出来ませんでした。

ご家族も参加できるイベントや行事として、6月中旬には近隣地域にある「あじさいロード」へのあじさいツアー、7月7日（日）には夏の大掃除、8月には家族会、9月15日（日）には「長寿をお祝いする会」10月13日（日）には、ラポール三ツ沢最大のイベントである「ラポール三ツ沢秋まつり」、12月1日（日）に冬の大掃除、1月中旬に初詣ツアーを実施しました。

2 人財育成の推進

（1）人財育成

令和6年度ファーストステップ研修にユニットリーダー1名を派遣。今年度新たにユニットリーダーになった2名がアセッサー講習を受講し、介護職員のスキルアップを図りました。

9月29日（日）に善行にて、藤沢と三ツ沢の両特養の各専門職が集まり、機能訓練についてこれまでの取り組みや、法人の考え方やケアについて、積極的に意見交換や話し合いを行いました。

（2）後方支援体制の構築

ユニットリーダーをバックアップできる体制については取り組みませんでした。

3 働きやすい職場環境づくり

各ユニットリーダー間でヘルプの連携はできましたが、人員不足に伴い時間外勤務は全体的に増加しました。

4 感染症対策としての医療との連携

医療との連携は出来ませんでした。

5 地域との連携の推進

広域自治会が開催している「ほっとなサロン」に、感染対応時だった7月、1月以外で毎月2～4名の入居者が参加することが出来ました。

多目的ホールの地域への活用として、寄付品やボランティア参加を中心に、地域の資源循環と支援活動を行っている認定NPO法人「WE21ジャパン・ほどがや」のリユース&チャリティ店の出張販売を、9月7日（土）と12月14日（土）の2回、ラポール三ツ沢多目的ホールにて開催しました。当日は近隣地域の方や、ラポール三ツ沢のご入居者や職員、ワーカーズコレクティブメンバーなど、趣旨に賛同頂いた大勢の方々が、楽しみながら購入していました。

ショートステイ ラポール三ツ沢

2024年度は相談員を配置することができず、居宅介護支援事業所等への広報活動が出来ませんでした。また、施設内での新型コロナウイルスのクラスターにより、受け入れを止めざるを得ない状況が発生する等が要因として、目標の稼働率を達成することが出来ませんでした。

2025年度4月より生活相談員3人体制、医務室長を配置し医務室体制を強化することにより、ショートステイ稼働アップを実施していきます。

1 ケアの質の向上

(1) ご利用者主体のケアの提供

ケアプランに基づいたご利用者個々のニーズに適したサービスを提供を意識し実践しました。

(2) 支援体制の充実

ワーカーズ・コレクティブくっく SUN と連携し、手作りの食べ物を提供したり、食の楽しみや季節の移ろい感じて頂けるよう、食事レクリエーションを実施できました。

2 稼働率の向上

(1) 2024年上期に予定していたショートステイ相談員は配置できませんでした。

(2) 外部機関との情報共有と連携強化を目的に、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへの広報活動はできませんでした。

モニタリング報告書を毎月作成し、居宅介護支援専門員へFAXにて送付し共有しました。

(3) 受け入れ体制の整備

ショートステイ会議を毎月開催し、各セクション間での情報共有を行いました。

3 ユニットの環境整備

ご利用者と職員がともに、心理的、身体的負担にならず、安全に安心して入浴できる環境にするために、浴室内で使用する福祉用具の検討、実施はできませんでした。

ユニットリビングが、ご利用者にとって生活に潤いをもたらす空間となるよう、リビングの環境季節の花や、ご利用者の関心のありそうな書籍、音楽を聴くスピーカーなどを整備しました。

※ 目標稼働率83.8%に対して、実績稼働率82.7%（予算比▲447万円）2024年4月から2025年3月までのショートステイ新規利用者54名。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ラポール三ツ沢

1 職員の成長

ご利用者に対し施設介護レベルの質の高い介護サービスを提供することができました。

「最後までその人らしく、ご自宅で安心して生活が出来る様に」の考えを第一にご利用者の残存能力を生かした生活を訪問看護師と協力し行うことができたと思います。

2 情報の発信

城南の定期巡回事業所と連携し、管理者間で情報の共有を行いました。研修等の開催には至らなかったことが課題です。三ツ沢特養と連携し感染時や緊急時における協力体制をとることができました。

3 新規利用者の増加（登録上）

4月：3名 5月：3名 6月：4名 7月：4名 8月：4名
9月：4名 10月：5名 11月：5名 12月：5名 1月：4名
2月：4名 3月：4名

※ 年間平均利用者人数：4.0

4 地域との連携

介護医療連携推進会議を実施。地域ケアプラザ主催の合同地域会議の事前検討会に参加、顔合わせの実施。

ライフサポートワーカーズ・コレクティブむすび

1 人材の確保と育成

- (1) 人材の確保
年間3人増員できましたが、後半チラシ配布ができませんでした。
- (2) 研修への参加
法人研修などには、ほぼ参加できました。全員会議で報告しメンバー全体で共有しました。

2 入居者支援

- (1) 生活環境整備の充実
特別清掃を毎月計画的に組み入れながら、ご入居者が日々気持ちよく過ごせるよう、生活環境の整備を行いました。
- (2) 洗濯業務の充実
ダブルチェックにより衣類の返却ミスは減っています。衣類の補修や更新を職員と共有しながら行っています。
- (3) 売店業務の充実
通常売店・常設売店共に継続して実施しています。
- (4) ラポール三ッ沢セミパブリックスペースの整理
 - ア 3階図書コーナーの本の入れ替えや整理を行いました。
 - イ 2階は不用品を整理し、娯楽等、ご入居者が好きなことを出来るようなスペースとしました。
 - ウ 1階は書道教室の作品の展示等を行いました。
- (5) 見守りの強化
市民パートナー活動などの行事が増えたため、行事の時のご入居者の誘導・見守りを行いました。またユニット依頼のキッチンの洗い物や、天気の良い日のご入居者の散歩を積極的に行いました。

3 地域展開の推進

- (1) 地域との連携強化
近隣の自治会行事のあじさいロード清掃やほっとなサロンに毎月積極的に参加しました。
- (2) ボランティアコーディネートの推進
コロナ禍で中止していた外部の市民パートナーによるボランティア活動が、2024年度は次々と再開し、新規の方も増えて日々の行事が充実しています。感染症対策をしっかりと行いながら、ご入居者の楽しみが増えるように行いました。秋祭りや大掃除も多くの方が参加しました。
- (3) ラポールシアターの開催
ワーカーズ・コレクティブによる定期開催が2カ月に一度行われ、近隣の方々も毎回楽しみに参加しています。

4 職員との連携

- (1) 会議・委員会・ユニットミーティングの積極的参加
基本的には参加できましたが、急に決まった会議には参加できないこともありました。
 - (2) 行事の企画・参加
依頼されたものは、ワーカーズ・コレクティブで積極的に参加しました。
また、新たにお月見イベント開催を企画し行いました。
 - (3) ワーカーズ・コレクティブの研修開催
2024年度はできませんでした。
 - (4) 防災会議や防災訓練への参加を行いました。さらに防災減災に関わる知識を蓄え、緊急時に誰がその場においても対応できるようにしていきます。
- 5 法人との連携**
- (1) ラポール藤沢のワーカーズ・コレクティブおれんじとの交流が、2024年度には実現しませんでした。次年度には計画していきたいです。
 - (2) 健康経営のための講座には、毎回メンバーが参加することができました。
- 6 ラポール三ツ沢みんなの会との連携**
- 秋祭りに大勢の方が市民パートナーとして参加しました。また横浜西部福祉ユニット運営協議会主催でラポール三ツ沢の見学会が行われました。

ワーカーズ・コレクティブくっくSUN

1 入居者支援

- (1) 手作りおやつ、ユニット調理
ご入居者の希望をパートナーと共に聞き取り、おやつは特に試作を行いゼリー食やソフト食の方にも食べやすい工夫をしました。
- (2) 握り寿司の実施
お寿司をナリコマ職員と一緒に厨房で握り、各ユニットで召し上がって頂きました。管理栄養士と共にナリコマとの打ち合わせを重ね実施しました。
ご入居者の目の前で握る実演も行いましたが、そのまま召し上がってもらえるような工夫が課題です。
- (3) くっくSUNの内部研修
ご入居者への対応強化の為、『傾聴』の研修を行いました。
ボランティアの講師を招きメンバー全員で学びました。業務の対応に生かされています。
- (4) ラポール三ツ沢セミパブリックスペースの整理

- ア 3階図書コーナーの本の入れ替えや整理を行いました。
- イ 2階は不用品を整理し、娯楽など、ご入居者が好きなことをできるようなスペースとしました。

2 人材確保・育成

(1) 人材確保

ワーカーズ・コレクティブ連合会のホームページに掲載や、地域向けのイベントでのチラシ配布を行いました。残念ながら増員には結びつきませんでした。

(2) 研修への参加

Uビジョン研修に参加しました。

3 ラポールとの連携

(1) キッチンパートナー研修を行いました。

(2) ケアラー支援は出来ておりません。

4 地域展開

(1) 地域との連携強化の為に防災訓練に参加しました。

(2) ワーカーズ・コレクティブむすびと共に、ラポールシアターの開催をしました。

隔月開催の目標通りの実施ができました。回を追うごとに集客数も増えてとても好評でした。

(3) 介護保険の説明などの講習会・ラポールサロン

職員向け研修でも行った『睡眠の質について』講習会を開催しました。

ラポール三ツ沢の理学療法士の方を講師に依頼し、多くの参加者があり好評でした。

5 職員との連携

(1) 会議・委員会・ユニットミーティングへの参加は9割ほど参加できました。

(2) 行事の企画、参加も9割できました。

また、新たにお月見イベント開催を企画し行いました。

(3) ワーカーズ・コレクティブの研修開催は、具体的な企画が立てられず実施できませんでした。

6 法人との連携

(1) 健康経営への参加

メンバーの8割が参加しました。

(3) ラポール三ツ沢みんなの会との連携

横浜西部福祉ユニット運営協議会主催でラポール三ツ沢の見学会が行われました。

辻堂拠点

藤沢市辻堂西いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）

1 相談対応

【介護保険請求】

介護保険	4月	5月	6月	7月	8月	9月
直営件数	138	145	150	149	151	154
委託件数	126	128	124	123	119	115
合計	264	273	274	272	270	269
介護保険	10月	11月	12月	1月	2月	3月
直営件数	155	159	159	157	162	163
委託件数	123	123	125	118	117	119
合計	278	282	284	275	279	282

【総合相談件数】

総合相談	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新規	20	32	38	42	35	43
継続	82	119	142	134	177	250
合計	102	151	180	176	212	293
総合相談	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	49	28	20	38	45	28
継続	263	267	184	236	222	253
合計	312	295	204	274	267	281

介護予防ケアマネジメントの担当件数、総合相談件数は上記のとおりです。担当件数・相談件数ともに増加傾向にあり、相談内容については多様化・多問題化しています。

2 地域活動

(1) 公園体操の実施

公園体操(辻堂海浜公園と諏訪神社)を毎週2か所で行い、地域住民の介護予防や交流の場の提供を行いました。

(2) 周知・情報発信

図書館セミナー、民生委員定例会などに出向き、地域包括支援センターの

周知活動や、介護保険制度や高齢者の暮らしに関する情報提供などを行いました。

(3) 高齢者出張相談会

辻堂団地内において出張相談会を3回開催しました。窓口に来所できない高齢者の個別相談対応を行い、介護保険サービスの利用に結びました。また、高齢者の居場所作りや各種サービスの紹介を目的に、体験会やセミナーを合同開催しました。好評につき、次年度も開催してほしいとの要望をいただいています。

(4) 家族介護者の会

12月に辻堂市民センターにて若年性認知症の会の『絆会』の協力のもと家族介護者教室を実施しました。同じ立場である介護者同士の居場所づくりを行いました。

(5) 機関紙の発行

「ほっと辻堂」の全戸回覧を9月・3月に行いました。

3 権利擁護

(1) 詐欺被害情報の発信

藤沢市内の詐欺被害情報を定期的に収集し、サービス事業所・民生委員・地域住民へ情報提供を行いました。

(2) 権利擁護セミナー

地域住民向けに成年後見制度セミナーを1回開催しました。

4 関係機関連携

(1) 地域ケア会議：地域ケア会議を2回開催し、地域のケアマネジャーの業務支援と、地域課題の検討を行いました。ケアマネジャーからの要望により個別の事例検討の方法を見直し、より個別事例の課題解決に重点を置いた話し合いを行いました。

(2) 辻堂地区相談機関連携会議

障がい者相談支援センター、CSW(コミュニティーソーシャルワーカー)などとの連携強化を目的に相談機関連携会議を毎月1回開催し、困難ケースなどの情報共有を行いました。また、積極的に個別同行訪問をするなどして、多問題を抱えたケースに対し迅速かつ適切な相談支援を行いました。

(3) 辻堂まちづくり会議・福祉部会

辻堂地域の関係団体、公募から構成される辻堂まちづくり会議、福祉部会に委員として参加し、辻堂地区の地域課題の把握などの検討及び普及啓発活動を行いました。また、10月には辻堂公民館まつりに参加し、地域住民が気軽に福祉に触れることができるよう、障がい者スポーツ体験や車いす体験を行いました。

(4) 辻堂地区ケアマネ会

地域の病院と協力してケアマネ会を3回開催し、医療・福祉・介護の連携強化を図りました。

(5) ふらっと辻堂包括:ふらっと辻堂包括を隔月で開催(ケアマネジャー・民生委員児童委員を対象)しました。

(6) 医療機関・事業所訪問

医療機関や薬局・訪問看護ステーションの一部に出向き、地域包括支援センターの周知活動を行いました。

5 法人内連携

辻堂東地域包括支援センターと定期的な連絡や会議、情報交換などを行いました。

6 資質向上

毎月の個別事例検討会の実施、外部研修(各職員)の参加を行い、職員の個々のスキルアップを図りました。

藤沢市辻堂東いきいきサポートセンター(地域包括支援センター)

1. 相談対応について

●介護保険請求

介護保険	4月	5月	6月	7月	8月	9月
直営件数	127	135	135	147	151	155
委託件数	164	163	158	154	150	149
合計	291	298	293	301	301	304

介護保険	10月	11月	12月	1月	2月	3月
直営件数	159	153	154	161	160	159
委託件数	147	153	152	154	154	155
合計	306	306	306	315	314	314

●総合相談件数

総合相談	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新規	34	30	45	33	32	32
継続	48	51	43	32	35	101
合計	82	81	88	65	67	133

総合相談	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	30	27	30	34	36	35
継続	110	80	61	71	80	79
合計	140	107	91	105	116	114

2024年度は8月、11月に職員2名が退職し、常勤4名（社会福祉士2名、看護師1名、主任介護支援専門員1名）と非常勤事務1名で相談対応を行いました（上期は継続相談のカウント方法に誤りがあり実際より少ない件数になっています）。

2. 職員体制について

職種が協働し専門性を発揮できた部分と、職種と経験値が違う職員が「包括支援センターが果たす役割や目的」をすぐに理解し共有し実行する事が難しく、摩擦が起きる状況もみられました。解決策として法人内研修を実施してもらいました。

3. 専門機関との連携・地域関係との連携強化

毎月開催・参加

- ① 西南部障がい者相談支援センター「つむぎ」・CSW・辻堂西地域包括支援センターで月1回、対応困難なケースの共有や解決に向けての会議を行いました。（職員が交代で参加し全員のスキルアップにつながりました）
- ② 民生委員・児童委員協議会や定期的に開催される「ふくの会」に参加しました。「ふくの会」では包括職員が健康や地域のサロン活動について話す機会を頂き、連携と顔が見える関係が作れました。
- ③ 郷土づくり推進会議（まちづくり会議）に参加し地域作りの協議をしました。

医療機関との連携:あいさつ回りを実施し包括チラシを配布し顔が見える関係を築きました。

地域ケア会議:9月と2月に開催しケアマネジャー・医療歯科・栄養・薬剤・リハビリ・事例の利用者が使うサービス事業所、民生委員児童委員、藤沢市職員が参加し、個別事例を通じて多職種で意見交換し地域課題について検討しました。

勉強会の開催:ケアマネジャーと民生委員・児童委員に向け「ふらっと辻堂包括」を隔月で開催しました。また辻堂地区ケアマネサロンを3回開催しました。

機関紙の発行:「ほっと辻堂」の全戸回覧を9月3月に行いました。

公園体操を実施:辻堂海浜公園（20名前後）諏訪神社（5名前後）毎週開催しました。

また地域住民の希望があり、自治会と協働で辻堂2丁目公園体操が立ち上がりしました。

地域サロンに参加: 4つのサロンに毎月・隔月で参加し体操・脳トレ等を行いました

市民への情報発信: 12月に司法書士による「相続・遺言の基礎」の市民講座を開催しました。また12月に法人と協働で家族会も行いました。詐欺被害防止の注意喚起の案内を随時必配布しました。

11月に海浜公園職員、3月にデイサービス事業所で認知症サポーター養成講座の講師依頼を受け実施しました。

4. 法人内連携

職員研修として7月に居宅で1名、9月に辻堂西地域包括支援センターで1名、約一か月間、滞在型研修を実施しました。

5. 防災について

辻堂地区防災協議会が主体となり自治会避難行動要支援者の個別避難計画作成についての担当者会議に参加し自治会と顔が見える関係を作りました。また地域の動きをケアマネジャー、民生委員・児童委員とも内容を共有するため「ふらっと東包括」でも勉強会を開催しました。

6. 今年度の課題点として、商業施設とから高齢の来店者について相談は入るものの、店内で包括案内や相談窓口の設置は費用面から実施できませんでした。